

# 壁高欄を本格展開

## 新世代P Ca工業会 技術資料を整備

新世代P Ca工業会(会長 篠田佳男氏)は2月22日、都内でWG会議を開催した。同工業会ではステンレス鉄筋を補強材とした高耐久埋設型枠「SDPフォーム」の普及拡大に取り組んでいる。新たな用途開拓を狙いとして壁高欄への採用に向けた営業展開を進めた結果、奈良県内の十津川道路今戸高架橋上下部工事(国交省近畿地整発注)の壁高欄施工に採用が決まり、昨春秋に施工が完了した。

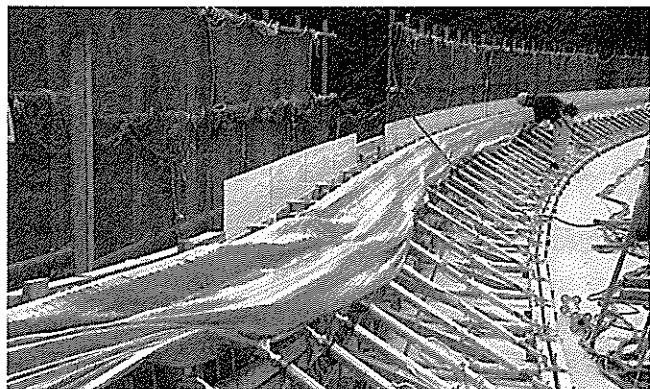


●壁高欄施工へのSDPフォーム適用  
SDPフォームが採用されたのは、十津川道路今戸高架橋上下部工事(国交省近畿地整発注、IHIインフラ建設施工)の壁高欄。十津川道路は国道168号のバイパス道路として国土交通省が直轄事業として整備を進めている。国道168号は幅員が狭く、土砂崩れや水害などで幾度も道路寸断や路面崩壊の被害を受けるなど、沿道地域の生活や経済に大きな影響を及ぼしてきた。このため奈良県五條市と和歌山県新宮市を結ぶ五條新宮道路の一部として、十津川道路の整備を

進めている。今戸高架橋は十津川に架かるPC2径間連続ラーメン箱桁橋(橋長172.3m)で、壁高欄の外型枠としてSDPフォーム312m<sup>2</sup>(270枚)を施工。SDPフォームのサイズは1.25×0.92mで、フォームに定着固定したトラス治具に鋼棒を取り付けると、任意の位置に内部支保工を設置する事ができる。高さ調整ボルトでレベル調整を行うためレベル出しが容易で、床版端部には切り欠け部を設けてレベル誤差を吸収した。10分程度で1枚のSDPフォームの取り付けが終了し、延長約170mの橋梁両側のパネル据え付け作業を1カ月で完了した。

●SDPフォームの技術・営業資料を整備  
今回の実績を踏まえ、同工業会では橋梁メーカーなどを対象に、SDPフォームの営業展開を本格化する考え。そのため会員各社の技術・営業サポートツールとして、3月末をめどに技術資料として「SDPフォーム使用マニュアル」を整備する方針。製造標準、設計マニュアル、施工マニュアルを一本化し、壁高欄に限らず一般構造物を対象とした内容とする計画。

●維持補修分野への展開も検討  
同工業会ではSDPフォームの新たな用途開拓として、漁港護岸など老朽化した鋼矢板護岸の補修工事に適用できないか検討を進める考え。現在は、鋼管の回りに配筋してモルタルまたはコンクリートで被覆する無機被覆方式が行われているが、水中でダイバーが型枠組立と解体を行うため作業効率の面で課題がある。比較的浅い場所の施工のため埋設型枠が適用でき、SDPフォームを適用すれば安定した補修補強工事案件になる可能性があるという。その他、老朽化した地下鉄セグメントの内張りなど、手作業で軽量化ニーズがある補修工事への適用についても検討する。



SDPカーブ施工(今戸高架橋)



SDPパネル吊り上げ(今戸高架橋)